



高瀬中だより

校長通信 No.10

2022.2.14

「備えあれば憂いなし～次年度に向けて」 校長 千秋 久宣

3学期がスタートし約1か月半が過ぎました。2021年度もあと1か月半、いや3年生にとっては中学校生活もあと1か月というところまでできました。

相変わらず、新型コロナウイルスは猛威をふるい、「まん延防止等重点措置」も延長されることになりました。「こんな時に何をやればいいんだ」と思い悩むことも多いと思いますが、時間は待ってくれません。こうしている間にも時間は過ぎていきます。しかし、じっと立ち止まっていたのでは何の成長や向上にもならないのです。この時期は、1年間のまとめをすると同時に、次の年度に向けての準備をする時期だと思えます。

「備えあれば憂いなし」という言葉を聞いたことがありますか。

これは「準備が整っていれば、どんなことが起きても心配することはない、日ごろからの準備が大事である」という意味です。つまり、「日ごろからの備えをしておきましょう」という意味です。

3年生にとって「備える」とは、二つの意味があると思えます。

一つ目は、まず、自らの進路に向けて、しっかりと備えるということです。みなさんは、これまで、自分の夢や目標に向かって、自分の進むべき道を真剣に考えてきました。そして、進路実現のために、今まさに、日々努力を重ねていることと思えます。悔いの残らないように、最後まで全力を尽くしてほしい思えます。

二つ目は、進路が決まったあとも、その後に備えるということです。進路決定がゴールではありません。その後をどう歩いていくかが重要です。みなさんは日々の授業をはじめとする様々な活動を通じて、今後生きていく上で多くのことを身につけてきました。自分の人生を豊かに切り拓いていくためには、身に付けてきたことをさらに大きくふくらませていくことが大切です。ですから、進路が決定した後も、努力を継続することを忘れないでください。

次に1・2年生にお話します。

生徒会役員や部活動等での引き継ぎがあり、バトンはすでに、3年生の手から1・2年生の手に渡されました。今はまだ、万が一バトン落としてしまっても、前の走者に拾ってもらうことができます。しかし、一旦バトンゾーンを過ぎてしまうと、もはやそれはできなくなります。バトンゾーンである期間はもう終わろうとしています。今のうちに、3年生の学びの姿を見て、自分たちの学校を築いていく準備をしておきましょう。また、一人一人が、現在の学習や生活の状況を振り返り、自分に不足していること、やっておかなければならないことを考え、今から動き出してほしいと思えます。

いざというときのための「備えあれば憂いなし」です。